

実践報告

オリンピック・パラリンピック教育にかかわる教育活動

附属小学校 清水 由

1. 各教科での取り組み

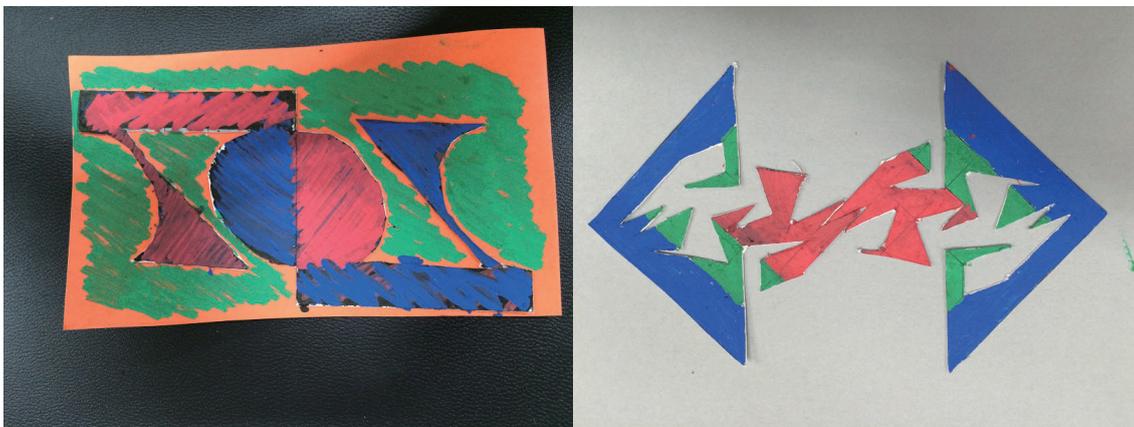
附属小学校では、オリンピック・パラリンピック教育のベースとなるようなグローバルな視点からの教育活動を中心に考えています。これまでも、各教科はもちろん、英語、総合、道徳といった教育活動全般において日本国内の文化はもちろん、国際理解に関わる授業実践を行ってきています。特に今年度は、総合の時間とリンクさせた算数科と図画工作科の授業実践にクローズアップして報告をさせていただいております。

①算数科「星条旗の星の数」2年生

アメリカ合衆国について総合の時間で学び、その興味関心の延長線上で算数の授業を試みました。現在のアメリカに州が1つ加わり51州になったことを想定して実際に試作された星条旗を題材としての授業でした。2年生ということで、かけ算を使った授業でした。「 $50 + 1$ 」という数のとらえ方から「 3×17 」という捉え方に変わっていく子どもたちの様子が伺えました。

②図画工作科「エンブレムの構想」6年生

オリンピックのエンブレムを子どもたちが考えていくという授業でした。教師の提示した条件の中で、子どもたちの豊かな発想を引き出し、相互鑑賞の中でシンメトリーの並びのよさに気づいていくような授業でした。



③体育科「フェアプレイ」3年生

大塚地区の附属小・中・高等学校で毎年共同開催している合同研究会において、「フェアプレイ」をテーマに公開研究会を行いました。小学校は3年生で「長縄2人跳び」と「コーンボール」の授業を行いました。

「長縄2人跳び」では、みんなで記録をつくっていく過程における葛藤場面に着目をしました。また、「コーンボール(攻防分離・攻守交代型の当てゲーム)」でも、ゲームに勝つことを目的として楽しく活動する中で、相手チームや自分のチームの行動(プレイ)について葛藤する場面に着目をしました。

授業を展開する中で、集団で記録をめざしたりゲームを楽しむという活動だからこそリアリティーのある葛藤場面に着目して「フェア」にプレイしていくということを子どもたちが話し合っていく授業でした。

2. 全校児童への取り組み

①全校朝会(眞榮里教諭)

眞榮里教諭が全校が集まる朝会でオリンピックの歴史や創設理念の話を行いました。近代オリンピックが行われるようになった理由、日本人の参加の歴史、行われてきた種目などをクイズ形式で子どもたちにわかりやすい形で行いました。

まとめとして、このような国際的なオリンピック大会が開かれるには、平和であることやさまざまな国の人々がお互いに理

実践報告 ▶

解し合うことの大切さを強調し、オリンピックには「参加することに意義がある」という言葉があることを伝えていました。

②全校朝会（山田教諭）

山田教諭も、眞榮里教諭と同様に朝会で全校を対象に「夢を追い続けること」をテーマに話を行いました。メダリストの北島康介さんをはじめとして、トップの一流選手（錦織圭さん、本田圭佑さん、イチローさん、等）が小学校のころに書いた作文を子どもたちに紹介しました。彼らの夢は一樣に世界で活躍する選手になることであり、そのために非常に多くの練習を努力していく覚悟を書き綴っていたという事実です。特に卒業を目の前にした6年生の心に響く話でした。



③創立記念式典での講演（江上いずみさん）

創立記念式典という行事において、全校を対象に国際的に通用する「おもてなしの心」についてご講演いただきました。江上さんは、本校の卒業生であると同時にご息女も卒業させました。そのような経験も含め、子どもたちにとって心に残るお話をいただくことができました。特に、マナーの具体的なところでわかりやすいお話をいただき、「分離礼」や「握手の仕方」「ノックの仕方」など、相手の気持ちを考えて行うことが大変に大事であることを子どもたちは学びました。翌日からすぐに実践できることも多く、子どもたちも楽しみながら実践をしていました。

